

(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟等 整備説明会 主な発言

日時	2023年5月18日(木) 18:30~20:45		
場所	町田市立 国際版画美術館 講堂		
町田市	文化振興課	8名	
出席者	国際版画美術館	2名	
	公園緑地課	4名	
	営繕課	2名	
参加者	45名		

参加者	昨日(仮称)国際工芸美術館整備工事の開札があったが入札が無かったのは事実か。
町田市	入札については中止になっているが、我々としては計画のとおり進めようとしているところである。今日の説明についても従来のスケジュールでご説明をさせていただいている。
参加者	社会情勢から鑑みてもペイしないと業者が判断して入札しなかったのではないか。もう一つは近隣住民の反対があるからではないか。資料の5ページについて。緑の評価について、エビデンスは出せるのか。該当アンケートを取ったとのことだが、出せないのに記載するのはルール違反だ。市の説明は支離滅裂である。資料の12ページについて、スケジュールについても必ず遅れることが決まっている。開札が遅れるから、必ず3ヶ月遅れるはずである。最初に言わないのは問題がある。市民運動を一生懸命行っているが、勝者も敗者もない。みんなが納得する計画を作成してやるべきである。市は作為的だ。
町田市	アンケートについては中心市街地近辺の緑が豊かであるかどうかについてアンケートを取った点について記載をしている。芹ヶ谷公園の緑の豊かさについて、アンケートを取ったものではない。 <b>【補記】</b> 芹ヶ谷公園再整備基本計画22ページ「町田駅利用者街頭アンケート結果(町田駅周辺商業地を利用するにあたっての評価)」参照
町田市	芹ヶ谷公園は緑が豊かであるが、中心市街地としては、緑がそこまで多くないのではないかということを示したものである。
参加者	そうであれば芹ヶ谷公園の緑の伐採をすべきではない。
町田市	中心市街地では、緑を感じにくいので、中心市街地から歩いて芹ヶ谷公園へ行けるなかで、芹ヶ谷公園の存在自体を知ってもらい、芹ヶ谷公園の緑と訪れた人をつなぐ。そんな全体の街づくり、満足感を高めていくことが必要ですと申し上げている。決して、芹ヶ谷公園の緑が低評価だから伐採するというものではない。

参加者	緑の重要性はその通りだが、木を切るべきではない。矛盾している。
町田市	<p>全く手をつけないということではなく、緑があることによって、そこで人の活動が生まれ、満足感が出てくることや、お子様連れの遊び場として楽しめたり、休むことができる場所になるなど、そういう場所にしていきたい。</p> <p>公園の全ての樹を切ってはいけないとは考えていない。芹ヶ谷公園の自然環境は重要なものと認識しているが、そこで人が活動するために必要な施設を設ける、そのなかで一定程度の樹木伐採は有りうると考えている。芹ヶ谷公園の緑が疲弊してしまわない範囲で、必要な施設は入れていくべきと考えている。</p> <p>緑を大切にするとということを基本姿勢でやっておりますし、緑にも色々な種類がある。特別緑地保全地区とって、そこを触らないで置いておくところもあれば、都市公園のような市街地にある緑については人が利用できる場所として、一定程度の人の手を入れていくものもある。伐採についても（仮称）国際工芸美術館の周囲についても捕植を行いながら進めていこうと考えている。芹ヶ谷公園全体の緑をいじろうというようには考えていない。緑を残していくために、緑の質という意味では、二次林というのが芹ヶ谷公園の緑である。本来二次林というのは、人が利用するために、15～25年の間に一度完全に伐採をして、そこから枝を伸ばして、薪を取るというのを繰り返してきた林である。維持管理という面では一定程度伐採は行っていきたい。</p>
参加者	ナラ枯れは起きているのは、数十年放置したからではないか。よくそんな口が言えたものである。
町田市	これまでの何度もお話をいただいております、ご説明しているところであるが、ナラ枯れについては、木が太くなることで虫が入りやすくなり起きているものである。ご指摘については真摯に受け止めておりますし、大きな樹木の伐採や二次林を更新していくことを2017年より始めている。公園全体のご意見をいただいているが、二次林としていくための伐採はしていますし、ただ木を切るだけでなく、維持、下草の管理についても予算を確保し、手を加えている状況である。
参加者	町田駅利用者街頭アンケートについて、中心市街地とのかかわりが課題として挙げているが、町田市が市民に対し中心市街地に何を求めるか、アンケートが15項目くらいでホームページに掲載されているものがある。その中では1番はバスロータリーの整備で2番目は商店街の充実ができていないということ、3番目もそんな内容だったと思う。その中には、芹ヶ谷公園と一体化してやっていこうとは書いていない。町田市がそうしたら商店街もよくなるのではないかと予測して書いていると思うが、市民が要望して書いているような書き方はおかしい。
町田市	街頭アンケートの中心市街地の緑の豊かさが低評価というものをうけて、市としても中心市街地との一体性を踏まえ、芹ヶ谷公園が重要な場所となり、

	また中心市街地の街づくりにとっても、有効ではないかと考え記載しているものである。
参加者	芹ヶ谷公園をいじることがなぜ中心市街地と一体化になるのか。街路樹を整備する方が良いのではないか。
町田市	緑が中心市街地に少ないなかで、駅から徒歩圏内に緑豊かな芹ヶ谷公園があり、中心市街地と一体的に考えることで、より街の魅力を高めていきたいと考えている。
別の参加者	芹ヶ谷公園をいじることで、なぜ一体化になるのか。
町田市	例えば（仮称）国際工芸美術館の整備については、芹ヶ谷公園と中心市街地とのアクセス改善の要素がある。また回遊性の向上もあり、（仮称）国際工芸美術館整備の基本計画内でも検討し進めているというところで、町田市中心市街地まちづくり計画の内容をご紹介している。
参加者	公園内に遊歩道があるが、弱者、保育園の子供たち、障がい者の方が利用しているが、どのように考えられているか。遊歩道がなくなったら、その方々はどうするのか。そういう方の弱者に対して何の配慮もない。
町田市	公園内の遊歩道について、芹ヶ谷公園は高低差が大きく、スロープは大事なものと考えている。現在のスロープ自体はバリアフリー基準に合っていないスロープということがある。通常は斜面だけでなく、高低差の75cm毎に踊り場とあって、フラットな部分を確保していくべきものとしなければならないが、高低差を解消するにあたって、地域の方々からエレベーターの要望は以前からいただいていた。高低差を解消するにあたって、スロープを設置する場合は、距離がかなり長くなることで、そのような方々を通るにあたって不十分というご意見もいただいていた。長年の地域の方のご要望、ベビーカーの方、車いすの方などが、公園を上から下まで楽に下りれる形になればということで、計画しているものである。
町田市	補足として、保育園の方がカートを利用されるにあたって、万が一手を離してしまった際に危険ということも伺っている。今回新たにエレベーターを整備することで、安心して公園の空間を楽しんでいただけることができると考えている。
参加者	芹ヶ谷公園の多目的広場が避難広場として使えなくなると聞いた。車いすの方、足の不自由な方はスロープを使っている。地震の際にエレベーターが使えない場合は、下に降りていく道がない。国際版画美術館の南側の歩道は傾斜がきつく車いすは使えない。
町田市	仰っていた芹ヶ谷公園の外の道については、傾斜がきついことなど承知をしている。芹ヶ谷公園全体を再整備する中で、スロープを新たに設ける部分もある。小田急線側の部分についてはバリアフリーの基準を満たした踊り場も適宜できているスロープを整備予定である。芹ヶ谷公園全体のなかで、広

	<p>い公園であり平面移動はあるが、エレベーターが止まったとしても、高いところから低いところ、横方向の移動ができるよう計画している。</p>
参加者	<p>町田市公共事業再編計画では、市民参画について記載がある。資料の9ページには、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本計画の市民意見募集があり意見を送った。公共施設というものは市民のための施設。市役所の担当者、設計者、利用者の方、ファシリテーターを含めて協議の場を設けて欲しいと書いた。そうしなければ市民の意見を反映できない。</p> <p>資料12ページのスケジュールについて、現在基本設計を行い、今後実施設計を行う予定とのことだが、今後市民が参加して、敗者も勝者も無い形で、市民のための、利用者のための施設であるため、市民参画する形で進めてほしい。そしてどのように進めていくのか聞きたい。</p> <p>芹ヶ谷公園をより良くする市民の会として、環境に詳しい人を呼んでシンポジウムを行った。芹ヶ谷公園の成り立ちは、40年近く前に公園ができた。町田市の市街化がすすみ、緑が一気に無くなった。その当時の市の担当者や関係者が緑を後世に残したいと言ってできた公園である。開発の魔の手が伸びそうになった時、市の英断で緑を拡張してきた経緯がある。後世のために緑を残していこうとあるのに、公園での活動のために、緑の一部を伐採するのは矛盾している。時代と逆行するのではないか。</p> <p>ナラ枯れ以外にも根上がりや枝が落ちたりしている。これは公園のなかの土を含めて健康状態があまり良くないという表れである。要望書を出した際の市の回答は大丈夫とのことだったが、なぜ大丈夫なのかを聞きたい。</p>
町田市	<p>基本計画のご意見募集のなかで、工房利用者であるとか市民の意見を聞きながら進めてほしいというご意見をいただいている。そういったこともあり、通常この施設規模で広く市民に向けて説明会を行うということは、多くないと思うが、市として設計内容をしっかりお知らせするために開催しているところである。工房を利用者されている方については、2021年9月、12月、2023年2月。また、今月にも説明をご予定している。芝好園自治会の方に関しても今年の2月にご説明をしている。そのように丁寧に、ご意見を聞きながら進めているところである。</p>
町田市	<p>自然の状態について、芹ヶ谷公園の緑そのものについては、ナラ枯れ、根上がりというお話があったが、ナラ枯れの原因として言われているのが、木の幹が太いほうが、虫が中に生育しやすく影響が大きいと言われている。学説で証明をされているものではないが、一般的に径の太いものが影響を受けると言われている。これまで起きてなかったというのが、木が太くなる前に、伐採など更新を行って、循環して、木の維持を行っていたからではないかと思われる。</p> <p>根上がり起きるといのは、酸素が不足し、酸素が欲しくなるから上がってくるのが、一般的な原因ですので、芹ヶ谷公園は流水が多く、水分が多い土地</p>

	<p>であるため、根上がりがり起きやすい地形ではある。スギなど湿気を好む樹木があるということは、公園の湧水が豊富であるということにも結び付く。緑全体の元気が無くなっているということだが、全体的に見てそのようには思っていない。他の公園でも枝が落ちたりなど同様にあり、その点は先んじて剪定を行うなど対応が必要であるが、全てについて行き届いていない面は実感としてあり、課題と認識している。</p>
参加者	<p>今後の参画のスケジュールは。</p>
町田市	<p>先ほどご説明した通り、市民の方のご意見はこれまでも聞いてきた。今回の説明会でもご意見を聞いて計画に反映をさせたいと考えている。工房利用者等関係する方のご意見も今後聞きながら、この設計を基に実施設計を進めていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>参画は一度きりではない。それはスケジュールにどのように落とし込むのか。実施設計に入ると意見を吸い上げる場が無くなる。</p>
町田市	<p>今日この説明会は、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の意見を聞く場として開催しており、ここでご意見を伺いたいと考えている。これまでも何度も関係する方々のご意見を聞いてきているところでありますので、そちらを基に設計を進めていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>体験工房は、工房利用者だけではない。市民の方にも利用してもらいたいと先ほど説明があった。市民や公園利用者が話し合うのが本来の形である。反映したものについて意見が言えるのが参画である。</p>
町田市	<p>本日の説明会がそういったご意見をいただく場として開催している。いただいた意見を踏まえて計画に反映させたいと考えている。</p>
参加者	<p>ここで出た意見を、聞いて考えていくということによろしいか。こういうことを聞いたというのをまとめて教えてほしい。あくまで意見を聞く場ということか。</p>
町田市	<p>(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の意見を聞く場として、いただいた質疑についてご回答をさせていただきたく開催をしている。</p>
参加者	<p>国際版画美術館から、工房を分離するメリットが全くわからない。完成された国際版画美術館を壊して、やる意味がわからない。ここに工房があるから、そこで学ぶ人たちも立派な作品を観て、学芸員の方たちと話をしてスキルアップに繋がる。(仮称)国際工芸美術館についても、ガラスなんかは箱根に行ってやればいい。斜面地に作る美術館なんて世界には無い。地震が起きた時に、ガラス工芸品を守れるのか。町田市は笑いものになる。首都直下型地震が想定されていて、町田市は震度6弱である。斜面地に建てることによって震度が増幅され、震度が1.5倍、2倍になるのは常識である。震度7になる。それでガラス工芸品を守れるのか。</p>
町田市	<p>(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の現在の計画について、版画工房のスペースの左側にはホールとあって、子供たちがガラスの体験が</p>

	<p>できたり、ワークショップができるスペースを計画している。2階部分のアトリエスペースは、版画工房ほどではないが、様々な体験、創作ができることで、活動する方どうし相乗効果が生まれることを考えている。これらの体験機能を別々にするのではなく、集約することでより魅力的な施設になると考えている。</p> <p>構造的な話であるが、今回土の中にあることで、地震の際に大きく揺れるというのは、一般的に見て聞かないものである。通常地震も含めて高層ビルなど高い建物になった場合に、階が上にいくほど強くなるものが一般的な考え方である。今回斜面地に作ることで、地震に対して不利になるというご意見は、一般的な考え方と異なるものである。耐震性能として収蔵品は、建物自体というよりは、免振構造として地震に対して影響を受けないような保管の仕方をきちんと整備するものである。</p>
参加者	常滑の美術館は、斜面地から平地に変更した経緯がある。そんな美術館見たことがない。他にあったら教えてほしい。
町田市	例えば、箱根のポーラ美術館は山地に建設しており、そういった例もある。収蔵品の保護に関しては、免震台を設置するなどの地震対策を行う。これは他の美術館も同様である。建物の耐震をただけでは小さな揺れほどの建物でも起きるものであり、建物の耐震性と収蔵品が揺れるか揺れないかというのは、また別の話であり、それぞれについては今後も対策を行うものである。
参加者	回答しているものは詭弁である。意見を聞いても反映しない。ガス抜きをして、何回やっても説明会の実績が残るだけで、対立する形になる。市長はあなたたちが求めている説明会はやらないと言った。我々の意見を聞いて反映させなければならない。私たちは無茶なことは言っていない。木を伐採せず、他の場所に建てれば半分のコストで、美術館を壊さずできる。めちゃくちゃな市政をやめてもらいたい。
町田市	市長含めてご意見は共有させていただく。
参加者	国際版画美術館を作った時、そのあり方、構想を変えてしまっている。市の再編計画に伴って変わったようだが、国際版画美術館を変えてまで、樹木を切つてまで（仮称）国際工芸美術館を作る経緯を教えてほしい。
町田市	国際版画美術館を壊すということは考えていない。鑑賞、創作、発表、というのが国際版画美術館の重要な役割である。これを（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟も含めて、美術エリアとして広げていくと考えている。アート・出会いの広場についても、国際版画美術館を壊すのではなく、外観についてもできるだけそのままにして、エントランスホールも現在の機能、雰囲気維持しながらより良いものにしていくものである。緑については、先程来お伝えしているとおりである。国際版画美術館の今が悪いのではなく、美術館の役割をより発展させていきたいと考えている。
参加者	版画工房の利用者と何度も打ち合わせをしたと知っているが、打ち合わせ

	<p>の意味がない。計画について意見を言っても検討するのみで、積み重ねはない。何回やったといっても、誰一人意見が反映されたと思っている人はいない。文化ゾーンネットワークの打ち合わせにも1回しか参加できなかった。話し合いではなく、その形を作ったとしか考えられない。私たちは工房を愛している。良い作品を作って、30年の間にみんなの力で使いやすくなった。形や机の配置を移したとしてもそこには、30年私たちの積み上げた気というもの満ちている。それを壊して、ましてや子供たちも利用するような場所にするにしても説得力がない。私たちの工房を譲るとするのが、納得できない。</p>
町田市	<p>これまでお話をしながら、いただいた意見として、ガラス、陶磁器、版画のスペースについて、一緒に空間にすることがどうかということや、子供も使うスペースについて版画工房のプレス機がある場所に、子供がいるのは良くないのではないかと、現状の版画工房の面積を縮小しないで欲しいなど、色々な意見をいただいております、それについてしっかり考え、どのようにしたら良いかを考え、今回設計に反映しているところである。全くこの会の意味がなかったと言われてしまうとどうなのかということになってしまう。</p> <p>2月に行った説明のなかでは、ドライエリアについて、暗室から入り口があるところは、こうした方が使いやすくなるのではないかとという工房利用者の方からご意見をいただき、市としてもよく考えて今回反映させているところである。このようにして、みなさんのお話を受けて進めているところであるので、その点をご理解をいただきたいところである。</p>
参加者	<p>版画芸術つまり創造の人生、社会に対する優位性を話したい。国際版画美術館が建設される際、当時の市長が町田から世界に誇れる他に無い美術館を作りたいということで、検討委員会のなかで版画の美術館ということになった。なぜ版画なのかは、ヨーロッパ、アメリカで日本の美術はなんだと聞くと版画であると識者は言うからである。</p> <p>以前ヨーロッパ、アメリカに行って版画の研究をして、日本の版画の良さを実感した。国際版画美術館は工房もある。世界に見ても版画に特化した美術館は一つもない。版画の研究、保存、展示に加えて創作の顔も持っている。日本が版画王国と呼ばれることに答えている美術館は他に無い。</p> <p>エレベーターが公園内に移る計画は立派な配慮だと思う。版画工房が対面にいって、わずか30mの距離だが別居と同居は違う。長い間で違うものに発展してしまう。美術館の使命として、研究、収集、保存、展示、それがどのような形で作られて美術品になっていくか市民の前で見せるというのが、工房の役割である。作品を創作できる場所を同時に抱えているのは世界で一つである。町田市の方、町田市民の方ががんばってください。</p>
参加者	<p>(仮称) 公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の盛り土は、どこから持ってくるのか。</p>
町田市	<p>(仮称) 国際工芸美術館で出た土を一部持ってくる予定である。</p>

参加者	熱海の事を考えれば、土が固まるまで2、3年はかかる。短期間でできる訳がない。(仮称)国際工芸美術館を建てなければ土を持って来なくて済む。市は根本から変えるべきだ。
町田市	土に関しては、ここを安全な場所にするためにどうすればいいかを検討するなかで、大きな擁壁ではなくて、30度以下であれば安全であるという一般的な開発の基準に則って、市だけでなく、東京都と話し合いを進めながら、安全なものとして、計画しているところである。 熱海の盛り土は、違法な残土処理を行ったり、盛り土の高さも基準より高い違法な処理を行っているもので、今回のものとは全く違うものである。(仮称)国際工芸美術館の土を使うというのも、どの土を使ったとしても六価クロムといった化学物質が入っていないかなど確認はするが、昔からこの場所にある信頼のできる土を使い、安心、安全な斜面形成ができると考えている。
参加者	化学物質の問題ではない、土が固まらないと意味がない。簡単なものではない。お金が100倍もかかる。よく考えるべきだ。
町田市	最後に1点だけ申し上げるが、盛り土が固まってからという点で、盛り土の上に建物を建てる場合は、土を造成して、水分が出てくるというのは、確かに良くないものである。だが、建物を建てる場所は盛り土を行うところではないため、安全性について問題ないものと考えている。
参加者	そんな簡単なものではない。建てる場所の話ではない。土が固まってからやるべきである。それで東京都の許可を取ることはおかしい。
参加者	土砂災害警戒区域に盛り土をして、安全にするなら芹ヶ谷公園全体にしななければならないのではないか。
町田市	建築物を建てるにあたって、危険を解消するために必要な行為として行っている。先ほども申し上げた通り、芹ヶ谷公園全ての斜面に擁壁を作るということは、全ての斜面に残っている緑を無くすということでもあるので、その斜面の先に人の住む建物があるかどうか、そこを対応するかどうかというのが、判断の一つになるかと考える。
参加者	忠生から今回参加した。国際版画美術館を壊すわけだから、山の上に博物館の一部を乗せる、その地盤については、別の講演会では地質学者から危険という判断があった。噂によると、緑の中に黒い建物ができる。よくわからないが。センスが無い。辞めてもらいたい。別紙1の資料を見ると、建設地の上に住んでいる方々は芝好園の木々が伐採されることで、西日が全部当たる。それについて住民は判子を押しているのか。認めているのか。
町田市	近くでご覧になっていただけるとわかるが、図面にも記載している通りかなり急傾斜である。何年か継続して見ている中で、徐々に進んでいるというのも確認しており、木が無くなることも踏まえて斜面を押さえることが必要と考えている。それを踏まえてコンクリートの壁だけにならないよう植栽を行うなどどういうことができるかを考えているところである。先日、近隣の方



	が実際現場を見て、木が無くなるのは残念だけど、安全を確保するということは、是非やっていただきたいということを伺っている。
参加者	全員の判子をもらって承認を得たのか。
町田市	安全性を確保するために必要と考える工事をさせていただくが、当然隣接されている方々からのご意見は預かりながら進めていくものである。
参加者	近辺に住んでいる方は40年、50年、住んでいる人がいる。庭のように接していた場所である。
町田市	芝好園の近隣の方々には2月にもご説明をしており、イエローゾーンと言って、土砂災害の危険性があるとして指定されている所を解除する、安全性が増す工事として行うというお話をさせていただいている。もちろん緑の話もありますが、それよりも安全安心に暮らしたいというお声をいただいているところである。
参加者	本当にそうだろうか。忠生の平らなところに32年間住んでいるが、上の芝生広場（第一整備地区）が出来てから、駐車場には車がいっぱい入り、駐車場の脇に車が順番待ちをしている土日がある。しかし、真夏は暑すぎて、芝生の上で子供を遊ばせられない。木陰もない。あの公園に一日いたことはあるか。
町田市	緑についてコミュニケーションは芝好園対象の方に2月と5月とご説明を行う中で、安全性を確保してほしいというお声を多くいただいている。5月に関しては、説明会の中で（仮称）国際工芸美術館のお話をいただく点が多かったが、ご意見用紙では、安全にきちんと整備してほしい、目の前に土砂災害の危険があることへの不安の声をいただいているところである。
町田市	上の芝生広場（第一整備地区）のお話は、今回お話している整備箇所と違うお話ではあるが、木陰が必要というご要望として承りました。
参加者	その芝生広場は、八重桜を切って芝生にした。真夏には、土日、熱くていられないので、みんなテントを持ってきている。それは大切な樹木を切ったからである。私は、毎年1回アトリエを利用し、展覧会を開いている。利用者だが、説明会の声が私には掛かっていないので、不満がある。市の中の色々なことについてのお金の使い方、協働の姿勢に不満がある。ホームページに掲載して意見募集を行ったり、パブリックコメントは行うが、そういう場を設けることで形作りをしているだけである。原町田大通りの延伸があり、それで樹木が切られ、その上にモノレールが通る。そうになると木の伐採は500本どころではない。その時の市長の姿勢がこういう状況で市民との摩擦が起こっていることを考えて欲しい。
参加者	館長は美術のプロか。
町田市	私は副館長であり、町田市の職員である。

参加者	だから、工房を壊して、アート・出会いの広場を作ることに屈辱を感じない。美術館として屈辱である。恥ずかしいと思わないのか。版画の企画、制作をしている。こんなことをやっていたら、協力しない。
参加者	ご意見用紙を出したら、どうなるのか。その後みんなで話を行うことをやっていない。2014年に(仮称)国際工芸美術館の基本計画ができた。それが、国際版画美術館の北側に建設することになったが、2018年に中止になった。その後私が知ったのは2019年である。市民参画でやらなければいいものはできない。今までの説明会と市長の発言を聞いて、反対するような説明会はやらないと町田第一地区の市政懇談会ではっきり言った。市は、市民協働を大事にすると発信しているのにもかかわらず、市は避けている。(仮称)国際工芸美術館の建築基準法の特例許可の取得にあたって、説明をしていない。我々がアンケートを取ったら99%が反対である。近隣の住民はみんな反対している。こういう会を開催し、市民の意見を吸い取るべきである。
町田市	特例許可の取得にあたって説明をしていないとのことだが、ご意見をいただいた方については、1軒1軒個別に訪問させていただいて丁寧にご説明をしてきたところである。ご意見については、市長含めて共有させていただく。